

はじめてネチズンになるあなたへ

文・越 智 貢 (文学部助教授)
Ochi, Mitsugu

カタカナの世界

ときどき、次のような質問をする。「以下の言葉で連想する人物を想像して下さい。ドライブ、キー、キャッシュ、ドライブ、ウイルス、マウス、ペースト」。

私のきまじめな息子の回答。「車でドライブに行こうとして、キーを探してるんだけど、なぜドライブに行きたいかといふと、風邪かなんかのウイルスにかかるやつで、・・・ねえパパ、ドライブって薬だよね、キャッシュはお金だ・・・だから薬を買いたいんだけど、マウスはネズミでしょ、ペーストってネズミの病気か何かだったな。この人、猫いらすも買うのかな。そうでしょ、答えは、薬屋へ買い物に行く人」。(私) それならペーストじゃなくてペストだろ。

年輩の知人の回答。「あのなあ君、日本語を使いなさい。最近の君の文章や話にはカタカナが多すぎる」。(私) ハイ、申し訳ございません。この質問、忘れてください。

私の教室の学生の回答。「先生、忙しいんだから、つまらん質問しないでください。答えは、パソコン使っている先生や僕です」。(私) そ、そうだね。勉強じやまして、ゴメン。

コンピュータの世界はカタカナが大手本です。だから、つまらん質問しないでください。答えは、パソコン使っている先生や僕です」。(私) そ、そうだね。勉強じやまして、ゴメン。

カタカナではなく、良識あるネチズン等々。先の年輩の知人に、いずれまた叱られるのは必至である。

だが、それらの用語は後回しにして、その前に知つてほしい別のカタカナがある。「ネチズン」と「ネチケット」だ。

インターネットでは、ネットワークのシチズン(市民)をネチズンと呼んでいる。ネチケットは、ネチズンが守るべきエチケットを指す言葉である。

たとえ同じマシンを使用していても、ワープロやスプレッドシートの道具として使う場合と、ネットワークの端末として使う場合とは、使い方に原則的な違いがある。前者とは異なつて、後者では、他者が関わつてくるからである。ネットワークとの接続は、他者とコミュニケーションを踏み入れることを意味している。

どんな公共の世界にも何らかのモラルが存在するが、これはネットワークでも変わらない。ネットワークの世界にも、それ独自のモラルがエーテルのように息づいている。これがネチケットと名づけられたネットワークのモラルである。

ネチケット

本学の雰囲気に慣れてきた新入生の多くは、そろそろ情報機器と格闘している頃だろう。なかには、電子メールやネットニュース、そしてWWWの画面に釘付けになり、毎日端末の前に座るのを楽しんでいる人もいるにちがいない。そんな人はもう立派なネチズンの仲間入りだ。だが、どうせネチズンになるなら単なる

ネチズンではなく、良識あるネチズンになつてほしい。少なくとも、ネットワークを混乱させる鼻づまみのネチズンにはなつてほしくない。そのためのネットワーク流生活の知恵がネチケットなのである。

ではネチケットとは、具体的にはどういうものだろうか。以下では、日本版のネチケットを参考することにしよう。今年の二月十六日に電子ネットワーク協議会により発表された「パソコン通信サービスを利用する方へのルール&マナー集」である。ここにはネットワークを利用する際の基本的な注意事項が書かれている。主だったネチケットとしては、次のようなものが挙げられている。

- 一・半角カタカナは使わない。
- 二・自分のパスワードはしっかりと管理する。
- 三・他人の電子メールや他人の秘密を公開しない。
- 四・猥亵画像や文章を公開しない。
- 五・著作権を守る。
- 六・コンピュータウイルスに注意する。

これらを簡単に言い直せば、自己責任を徹底し、他者への配慮を怠らない、ということになるだろう。現実世界のモラルではない一つの項目も、UNIX系の機種ではコード上の理由で半角カタカナが表示されないという事情に基づいており、やはり他者への配慮のためである。この点では、ネチケットも現実世界のエチケットとそれほど異なるところはない。ネットワーク環境のメディア的特性を知つて

いれば、ほぼ常識的なエチケットの応用で事足りる。

実は、これらのエチケットには先例がある。昨年十月、アメリカのインターネット技術特別調査委員会（IETF）が制定した「ネチケット・ガイドライン」（RFC1855）である。マナー集に比べて、かなり詳しい記述になつてはいるが、両者の狙いはほぼ同じだと見ることができ。事実、このガイドラインは「よい経験則」として「送信する内容には慎重さを、受信する内容には寛大さを心がける」よう求めている。これを踏まえた上で、郷に入れば郷に従えとも薦めている。こ

こにも、自己責任の原理と他者配慮の原理を中心とする伝統的なモラルが生きていたが、その一方で、コンピュータに特有のメディア的特性のために、現実世界では起りにくい問題が生ずることも留意している。

たとえば、同じディスプレーの画面でも、ワープロの文書を開いたウインドウは私的空间に属し、その隣に開いたネットニュースのウインドウは公共の空间に属している。ここでは時間も空间も公私を分ける条件にはなりにくい。このような公私共存のメディアを、歴史上手にしたのはわれわれがはじめてなのである。こうした場面では、なぜかわれわれの

エチケットの働きが鈍くなる。ネットワークで、私的空间にとどまるべき事柄が公共的空间に持ち込まれやすいのはそのためであるように思われる。現実世界の公共の面前で猥亵画像を掲げたりする人はまずいなが、ネットワークではまれではない。いや、今年二月に発効したアメリカの「コミュニケーション品位法（CD A）」に示されているように、猥亵问题是、現在先進各国が緊急の対応を迫られている問題になっている。むろん日本も例外ではない。

「暫定道徳」

もつとも、気をつけなければならぬのは、猥亵問題にとどまらない。むしろ著作権に関わる領域で、今後トラブルが続出することが予想されている。現実世界でそれほど意識されないだけに、ネットワーク初心者はとりわけこの問題に神経を払う必要があるだろう。先のマナーリストは、著作権に抵触する具体例として次のようにもはつきり区別できるのが普通だが、ネットワーク環境ではその区別が極端に曖昧になる。

たとえば、同じディスプレーの画面でも、ワープロの文書を開いたウインドウは私的空间に属し、その隣に開いたネットニュースのウインドウは公共の空間に属している。ここでは時間も空間も公私を分ける条件にはなりにくい。このような公私共存のメディアを、歴史上手にしたのはわれわれがはじめてなのである。こうした場面では、なぜかわれわれの

- 楽曲の歌詞を転載する。
- ある人から来たメールを承諾なしで公開する。

- 電子会議のメッセージを無断で第三者や他の媒体へ転載する。

- 第三者が作成したソフトウェアを、許可なく無断で第三者や他のネットへ送信する。

- 気に入ったページや画像をスキヤナやソフトで読み込んで、ちよつとしたノリから公共の空間へと「無断で」ペーストすることは十分ありそうなことである。だがそうすれば、エチケットに反するばかりか、法律違反にもなることを今から肝に銘じておくべきだらう。実際、この種の係争事件は後をたたない。この点でエチケットが、エチケットとは異なり、限りなく法に近いモラルであることを忘れてはならないだろう。

先の電子ネットワーク協議会は、ネットワーク事業者向けの「電子ネットワーク運営における倫理綱領」（本年二月）でこうした法律とエチケットとの関係を強調している。

一、電子ネットワークにおいて、言論の自由、人権の尊重など日本国憲法の精神を尊重する。

二、電子ネットワークにおいて、法および社会慣習により遵守すべきとする公序良俗を尊重する。

三、全ての人が次の事項に関して、電子ネットワーク上で不利益を被らなければ、あれば、かなり深い知識を得ることも不可能ではなくつてはいる。最近になつて、

知的所有権
名譽および信用
肖像権、プライバシーに関する
権利などの人格権

- 四、電子ネットワークにおける良きマナーを啓発する。

- 五、電子ネットワークにおける寛容の精神を醸成する。

インターNetが超国家的存在であることを理由に、個別の国家の法律の適用を疑問視する意見もなくはないが、ネットワーク初心者にとっては、個々の国家の法律に従うのが、当面、賢明なやり方であるにちがいない。インターネットが発展途上の現在進行形にある以上、そこに息づくエチケットも超国家的な水準で定着するにはまだ多くの時間がかかるからである。

かつてデカルトが、モラルの基礎づけのために、現行のモラルを「暫定道徳」として位置づけながら、結局それ以上の道徳を発見できなかつたことを想起すべきかもしれない。いや、私見によれば、暫定的でないモラルなどそもそも存在しないためではないのである。

コンピュータ・エシックスの十戒

書物の量が研究の質を支えていた時代は短くない。ついこの間まで、研究を進めるためには、かなりの蔵書が必要とした。だが、現在は必ずしもそうではない。インターネットに接続したパソコン一台で転載する。

- テレビやビデオなどから取り込んだ画像や動画データを無断で転載する。
- 芸能人などの著名人の写真やキャラクターの似顔絵などの画像データを無断で転載する。
- 市販ソフトウェアそのもの、および一部改変したデータを無断で転載する。

著作権、特許および商標などの

